

# 家庭科「家庭総合」年間指導計画

単位数	4単位(年間:2単位) 70時間
学科・学年・学級	園芸科 第1学年1組

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	使用教科書:第一学習社「家庭総合」 副教材:第一学習社「家庭総合学習ノート」、第一学習社「生活ハンドブック」資料&成分表

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	配当時間	学習のねらい・目標	備考
第1学期	「家庭科の学び方」				
	1章 これからの生き方と家族 1 生涯の生活設計	4	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。</li> <li>ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。</li> <li>人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解し、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定していくことの重要性について理解する。</li> </ul>	
	2 家族・家庭と社会とのかかわり	5	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解し、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解する。</li> </ul>	
	2章 次世代をはぐくむ 1 子供の発達	6	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>子育ては、社会全体で支えていく必要があることを理解する。</li> <li>乳幼児期の心身の発達について理解する。</li> </ul>	
	2 子供の生活 3 子育て支援と福祉	7	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、子供が育つ環境と福祉、子育て支援、子供との関わり方についての知識や技能を身に付ける。</li> </ul>	妊婦疑似体験 アタッチメントの形成、子どもの遊び・食生活についての理解を深めるため、絵本の読み聞かせ等
夏休み	ホームプロジェクト	8		<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。ホームプロジェクトの課題としてボランティア活動を選択することも可能である。</li> </ul>	レポート
第2学期	6章 衣生活をつくる 1 人の一生と被服	9	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、衣服とは何か、衣服の機能や役割について理解する。</li> <li>流行やアパレル産業など、衣生活の現状や問題点を把握し、自分たちの衣生活と結びつけて学習する。</li> </ul>	手持ち衣料調査
	2 被服材料と管理	10	22	<ul style="list-style-type: none"> <li>衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができる。</li> <li>衣服の購入・洗濯・保管などについて理解する。</li> </ul>	衣服の表示調査 界面活性剤実験
	3 被服の製作	11		<ul style="list-style-type: none"> <li>被服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。</li> </ul>	基礎縫い タブレット製作
	4 これからの衣生活	12		<ul style="list-style-type: none"> <li>伝統的な和服の構成や材料、着装の特徴を理解する。</li> <li>環境負荷の低い衣生活の在り方を考え、実践する。</li> </ul>	
第3学期	8章 経済生活をつくる 1 私たちの暮らしと経済 2 消費者問題を考える	1	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>家計の構造について理解し、生活における経済と社会との関わりについて理解を深める。</li> <li>生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解する。</li> <li>消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解する。</li> <li>消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解する。</li> </ul>	
		2			
	3 持続可能な社会をめざして	3	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解し、持続可能な社会を目指して主体的に行動する。</li> </ul>	

## 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;知識及び技能&gt; 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的に理解しているとともに、それらに係わる技能を体験的・総合的に身につけている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等&gt; 家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等&gt; 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>&lt;評価&gt; これらの観点を踏まえ、各領域や毎授業ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。 ①授業中の学習の様子(発表等の学習活動や実習活動への取り組み状況など) ②ワークシート、学習ノート、物づくり(作品)、レポート等の提出物 ③定期考査</p>
--

# 家庭科「家庭総合」年間指導計画

単位数	4単位(年間:2単位) 70時間
学科・学年・学級	園芸科 第2学年1組

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	使用教科書:第一学習社「家庭総合」 副教材:第一学習社「家庭総合学習ノート」、第一学習社「生活ハンドブック」資料&成分表

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	配当時間	学習のねらい・目標	備考
第1学期	第5章 食生活をつくる 1 人の一生と食事	4	6	・食事の役割と現代の食生活の実情を知り、健康で安全な食生活を営むための基本を理解する。 ・環境に負荷をかけない食生活上の工夫を考える。 ・日本の食文化について理解する。	
	2 栄養と食品	5 6 7	18	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的基本的な知識を習得する。	調理実習1(お菓子) 調理実習2(和食)
夏休み	ホームプロジェクト	8		・ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。ホームプロジェクトの課題としてボランティア活動を選択することも可能である。	レポート
第2学期	3 食生活の安全のために	9	8	・食品衛生(食品の選択、食中毒、食品添加物)について理解する。 ・調理に関する基本的基礎的な技術を習得する。	調理実習3(中華)
	4 食生活をデザインする	10	8	・栄養・食品の知識をもとに、食事摂取基準、食品群別摂取量等を理解し、バランスのとれた家族の食事計画(献立作成)を考える。 ・食事マナーを理解する。	調理実習4(洋食)
	第3章 充実した生涯へ	11 12	12	・生涯を見通して高齢期を捉え、自分はどうような高齢期を過ごすか考える。 ・高齢者の身体的特徴と心理的特徴について理解し、高齢者との関わり方について考える。 ・高齢者福祉サービスについて知り、社会の現状と課題について理解する。	調理実習5(琉球料理)
	第4章 ともに生きる	2	2	・社会的保障制度について理解する。 ・誰もが安心して暮らせる社会の構築のために、自分ができることや地域の支援システムについて考える。	高齢者疑似体験 認知症サポーター養成講座
第3学期	第7章 住生活をつくる 1 人の一生と住まい 2 住生活の計画と選択	1 2	14	・住まいの機能や歴史について知り、住まいが気候風土や生活と密接に関わっていることを理解する。 ・生活の機能に応じた住空間の構成を理解し、ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができるようにする。 ・平面図について理解する。 ・快適な室内環境について理解する。 ・家庭内事故や災害について学び、安全な住まいについて理解する。 ・住生活の現状や住宅政策を理解し、各自の課題を考える。	平面計画
	学習の振り返り	3	2	・これまでの学習を振り返り、持続可能な社会の担い手としてこれから自分にできることを考える。	

## 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;関心・意欲・態度&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。</p> <p>&lt;技能&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けることができる。</p> <p>&lt;知識・理解&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。</p> <p>&lt;評価&gt; これらの観点を踏まえ、各領域や毎授業ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。 ①授業中の学習の様子(発表等の学習活動や実習活動への取り組み状況など) ②ワークシート、学習ノート、物づくり(作品)、レポート等の提出物 ③定期考査</p>
--

# 家庭科「家庭総合」年間指導計画

単位数	4単位(年間:2単位) 70時間
学科・学年・学級	普通科 第2学年2組、3組

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。
使用教科書・副教材等	使用教科書:第一学習社「家庭総合」 副教材:第一学習社「家庭総合学習ノート」、第一学習社「生活ハンドブック」資料&成分表

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	配当時間	学習のねらい・目標	備考
第1学期	「家庭科の学び方」				
	1章 これからの生き方と家族 1 生涯の生活設計	4	6	・「家庭総合」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、情報収集、レポートの書き方など学習の方法、評価の方法を理解する。 ・ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の意義と実施方法について理解する。 ・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解し、自立した生活を営むために、生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定していくことの重要性について理解する。	
	2 家族・家庭と社会とのかわり	5	8	・家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解し、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について理解する。	
	2章 次世代をはぐくむ 1 子供の発達	6	8	・子育ては、社会全体で支えていく必要があることを理解する。 ・乳幼児期の心身の発達について理解する。	
	2 子供の生活 3 子育て支援と福祉	7	6	・乳幼児期の生活、子供の遊びと文化、子供が育つ環境と福祉、子育て支援、子供との関わり方についての知識や技能を身に付ける。	妊婦疑似体験 アタッチメントの形成、子どもの遊び・食生活についての理解を深めるため、絵本の読み聞かせ等
夏休み	ホームプロジェクト	8		・ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。ホームプロジェクトの課題としてボランティア活動を選択することも可能である。	レポート
第2学期	6章 衣生活をつくる 1 人の一生と被服	9	6	・衣服の起源や歴史、風土に適した衣服などの学習を通して、衣服とは何か、衣服の機能や役割について理解する。 ・流行やアパレル産業など、衣生活の現状や問題点を把握し、自分たちの衣生活と結びつけて学習する。	
	2 被服材料と管理	10	22	・衣服素材の種類、繊維の種類と特徴、衣服素材の性能について理解し、用途に応じた素材の選択ができる。 ・衣服の購入・洗濯・保管などについて理解する。	衣服の表示調査 界面活性剤実験
	3 被服の製作	11		・被服製作を通して、衣服の構成や基礎的な縫製技術を身につける。 ・伝統的な和服の構成や材料、着装の特徴を理解する。 ・環境負荷の低い衣生活の在り方を考え、実践する。	基礎縫い エプロン製作
	4 これからの衣生活	12			
第3学期	8章 経済生活をつくる 1 私たちの暮らしと経済 2 消費者問題を考える	1	12	・家計の構造について理解し、生活における経済と社会との関わりについて理解を深める。 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解する。 ・消費行動における意思決定や責任ある消費の重要性について理解する。 ・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう、消費者問題や消費者の自立と支援、契約の重要性や消費者保護の仕組みについて理解する。	
		2			
	3 持続可能な社会をめざして	3	2	・生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解し、持続可能な社会を目指して主体的に行動する。	

## 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;知識及び技能&gt; 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的に理解しているとともに、それらに係わる技能を体験的・総合的に身につけている。</p> <p>&lt;思考力、判断力、表現力等&gt; 家族や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身につけている。</p> <p>&lt;学びに向かう力、人間性等&gt; 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。</p> <p>&lt;評価&gt; これらの観点を踏まえ、各領域や毎授業ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。 ①授業中の学習の様子(発表等の学習活動や実習活動への取り組み状況など) ②ワークシート、学習ノート、物づくり(作品)、レポート等の提出物 ③定期考査</p>
--

## 選択Ⅱ「生活教養」年計

単位数	2単位
学科・学年・学級	園芸科 第3学年1組

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 保育に関する知識や技術を習得する。 2. 食文化とマナーについて学び、実践する。 3. 色々なあいさつや言葉遣いについて学び、実践する。
---------	---

### 2 学習計画及び評価方法等

#### (1) 学習計画等

学習内容	配当時間	月	学習のねらい・目標	備考
子どもと創作活動	10	4 5	・折り紙による表現の基本技術を身につける。	・家庭科保育技術検定4級、3級を参考にする。
子どもの遊びと発達	10	6	・遊びがこどもの成長に深く関わっている事を学び、発達段階に応じた遊びを実践的に学習する。 ・手作りの玩具を製作する。	実習(ぬいぐるみ)
子どもと文学	12	7 9	・絵本の読み聞かせや素話の技術を身につける。 ・手作り絵本を製作する。	実習(手作り絵本製作)
食文化の理論 食事のマナー	8	10	・沖縄の伝統料理と行事について調べ、実際に郷土料理を作る。	調理実習1(郷土料理)
	8	11	・日本料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・日本料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。 ・訪問とおもてなしのマナー(お茶の入れ方や茶菓子の出し方頂き方)を学ぶ。	調理実習2(和食)
	8	12	・西洋料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・西洋料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。	調理実習3(洋食)
日常生活の基本 エチケット	8	1	・中華料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・中華料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。	調理実習4(中華料理)
年中行事とマナー	6	2	・言葉づかいやあいさつについて理解する。 ・身だしなみや電話のマナーについて実践的に学ぶ。 ・ライフステージにおける慶事について理解する。 ・1年間のまとめをする。	・最新版 私たちのエチケット —身近なところからはじめよう— (教育図書)を参考にする。

### 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活、社会生活について関心を持ち、よりよい人間関係や生活を創造しようとする意欲を持つ。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活教養で学習した知識・技術を活用して、実生活に活用できるよう創意工夫する能力を身につける。</li> </ul> <p>&lt;技能・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びと発達に必要な基礎的・基本的な技能を身につける。</li> <li>・食事のマナーや日常生活、職業生活でのマナーを身につける。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい家庭生活、社会生活を送るためには、日常生活でのマナーや伝統行事が大切だということを理解する。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>これらの観点を踏まえ、各授業や単元ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の学習の様子(学習活動や実習活動への参加状況など)</li> <li>・ワークシート、作品などの提出物</li> </ul>
---

# 家庭科「家庭総合」年間指導計画

単位数	4単位(年間:2単位) 70時間
学科・学年・学級	普通科 第3学年2組、3組

## 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 人の一生を生涯発達の視点で総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解する。 2. 生活課題を解決するために必要な知識と技術を習得し、家庭生活の充実向上をはかる力と実践的な態度を身につける。
使用教科書・副教材等	使用教科書:第一学習社「家庭総合」 副教材:第一学習社「家庭総合学習ノート」、第一学習社「生活ハンドブック」資料&成分表

## 2 学習計画及び評価方法等

### (1) 学習計画等

学期	学習内容	月	配当時間	学習のねらい・目標	備考
第1学期	第6章 食べる 1 人の一生と食事	4	6	・食生活の歴史や食文化から、食事の意義について理解する。 ・食事調査を通して、各自の食生活の問題点について考える。	
	2 栄養と食品	5 6	16	・栄養素の種類と働きやそれぞれの栄養素が多く含まれる食品についての基礎的な知識を習得する。	調理実習1(お菓子)
	3 食生活の安全のために	7	6	・食品衛生(食品の選択、食中毒、食品添加物)について理解する。 ・調理に関しての基礎的な技術を習得する。	野菜の切り方 調理実習2(和食)
夏休み	ホームプロジェクト	8		・ホームプロジェクトの課題をみつけ、夏休みに調査・研究を行う。ホームプロジェクトの課題としてボランティア活動を選択することも可能である。	レポート
第2学期	4 食生活をデザインする	9	8	・栄養・食品の知識をもとに、食事摂取基準、食品群別摂取量等を理解し、バランスのとれた家族の食事計画(献立作成)を考える。 ・食事マナーを理解する。	調理実習3(中華)
	5 これからの食生活	10	8	・食品の自給率について理解する。 ・環境に配慮した調理方法(エコクッキング)について考える。 ・インスタント食品等に含まれている糖分・塩分について理解する。	調理実習4(洋食)
	第3章 充実した生涯へ 1 高齢期を生きる	11	8	・高齢社会の現状と、将来の高齢社会の在り方を考える。 ・高齢者の健康意識について知るとともに、元気に活躍する高齢者の社会参加について理解する。	調理実習5(琉球料理)
	2 高齢社会を支え合う	12	8	・高齢者の生活費について知り、公的年金制度や経済的な支援について考える。 ・介護保険制度のねらいや運営方法について理解し、今後の課題についてもかんがえる。 ・高齢者の介助や自立を支援するための基本的な方法について理解する。 ・ノーマライゼーションの実現のためにできることを考える。	
第3学期	第8章 住まう 1 人の一生と住まい 2 住生活の計画と選択	1 2	10	・住まいの機能や歴史について知り、住まいが気候風土や生活と密接に関わっていることを理解する。 ・生活の機能に応じた住空間の構成を理解し、ライフステージやライフスタイルに応じた住生活の計画ができるようにする。 ・平面図について理解する。 ・快適な室内環境について理解する。 ・家庭内事故や災害について学び、安全な住まいについて理解する。	
	3 これからの住生活			・住環境について理解する。 ・住生活の現状や住宅政策を理解し、各自の課題を考える。	

## 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;関心・意欲・態度&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。</p> <p>&lt;思考・判断・表現&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。</p> <p>&lt;技能&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する課題を解決するため、必要な基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けることができる。</p> <p>&lt;知識・理解&gt; ・人の一生と家族家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身に付けている。</p> <p>&lt;評価&gt; これらの観点を踏まえ、各領域や毎授業ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。 ①授業中の学習の様子(発表等の学習活動や実習活動への取り組み状況など) ②ワークシート、学習ノート、物づくり(作品)、レポート等の提出物 ③定期考査</p>
--

## 選択Ⅱ「生活教養」年計

単位数	2単位
学科・学年・学級	普通科 第3学年

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1. 保育に関する知識や技術を習得する。 2. 食文化とマナーについて学び、実践する。 3. 色々なあいさつや言葉遣いについて学び、実践する。
---------	---

### 2 学習計画及び評価方法等

#### (1) 学習計画等

学習内容	配当時間	月	学習のねらい・目標	備考
子どもと創作活動	10	4 5	・折り紙による表現の基本技術を身につける。	・家庭科保育技術検定4級、3級を参考にする。
子どもの遊びと発達	10	6	・遊びがこどもの成長に深く関わっている事を学び、発達段階に応じた遊びを実践的に学習する。 ・手作りの玩具を製作する。	実習(ぬいぐるみ)
子どもと文学	12	7 9	・絵本の読み聞かせや素話の技術を身につける。 ・手作り絵本を製作する。	実習(手作り絵本製作)
食文化の理論 食事のマナー	8	10	・沖縄の伝統料理と行事について調べ、実際に郷土料理を作る。	調理実習1(郷土料理)
	8	11	・日本料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・日本料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。 ・訪問とおもてなしのマナー(お茶の入れ方や茶菓子の出し方頂き方)を学ぶ。	調理実習2(和食)
	8	12	・西洋料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・西洋料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。	調理実習3(洋食)
	8	1	・中華料理の特徴を理解し、調理の技術を習得する。 ・中華料理の食前・食中・食後の食卓作法を学ぶ。	調理実習4(中華料理)
日常生活の基本エチケット	6	2	・言葉づかいやあいさつについて理解する。 ・身だしなみや電話のマナーについて実践的に学ぶ。 ・ライフステージにおける慶事について理解する。 ・1年間のまとめをする。	・最新版 私たちのエチケット —身近なところからはじめよう— (教育図書)を参考にする。

### 3 評価規準・評価方法

<p>&lt;関心・意欲・態度&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭生活、社会生活について関心を持ち、よりよい人間関係や生活を創造しようとする意欲を持つ。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活教養で学習した知識・技術を活用して、実生活に活用できるよう創意工夫する能力を身につける。</li> </ul> <p>&lt;技能・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの遊びと発達に必要な基礎的・基本的な技能を身につける。</li> <li>・食事のマナーや日常生活、職業生活でのマナーを身につける。</li> </ul> <p>&lt;知識・理解&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・よりよい家庭生活、社会生活を送るためには、日常生活でのマナーや伝統行事が大切だということを理解する。</li> </ul> <p>&lt;評価&gt;</p> <p>これらの観点を踏まえ、各授業や單元ごとの具体的な評価方法としては、以下の項目より総合的に判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業中の学習の様子(学習活動や実習活動への参加状況など)</li> <li>・ワークシート、作品などの提出物</li> </ul>
---